

旧海部病院の 今後の利用について



榎谷 千重子 議員

地震に備え、この庁舎をどうするのが大きな課題である。しかし、旧海部病院をそのまま役場として使用するには大きすぎる。さらに修理コスト、リフォーム費用、二回の引っ越し費用等、そもそも旧海部病院は、なぜ移転しなければならなかったのか。来たる南海トラフ大地震に向け、川沿いに建つ海部病院は海抜から言っても二階まで浸水の危険があったからではないか。津波で浸水する建物に役場を持つていくのか。県には旧海部病院を更地にしていただき、牟岐バイパス事業に出る残土を盛土

にして高台にする。その上にこじんまりとした、人口の身の丈に合った役場を新築することを提案する。そうすることにより、近隣地域の皆さんの高台避難所にもなり、周辺店舗等の利益にもつながる。これから人口が大きく増えることがないと思われる。それ故に大きな役場は無用と思う。

【答】 福井町長

海部病院の高台移転を目前にして、大きな懸案事項が、空き家となる施設の跡地利用である。南海トラフ地震を控え、避難場所として残し利活用する。ただ、浸水地域にあるのは問題であり、役場庁舎耐震化移転等検討委員会を設置し、代替え案の検討を行っている。

【答】 大森副町長
第一回検討委員会を11月に開催した。役場については、旧海部病院の活用について選択肢として残しながら、基本的には浸水区域外に移転すべきとの意見で一

致している。浸水区域に庁舎があれば、公用車や設備などの被害を含め、復旧作業が行えない。浸水区域外に早急に候補地を選定するのが最良であると第一回の委員会を終えている。

アサギマダラを

牟岐町の観光名所に



昨年10月に小学校に飛来したアサギマダラ

【質】 榎谷議員

アサギマダラを牟岐の学校に呼ぼうと6月、牟岐小学校137名が中心になって学校並びに地元の人達の指導を受け、子ども達の手でフジバカマを花壇に植え、暑い夏のなか、草むしりや水やりをし、アサギマダラの到来を待つことになった。10月13日の新聞報道にも大きく取り上げられ、花を育てて持ち望んでいた児童は喜んでいるとある。その後、13日間、毎日のようにアサギマダラが顔を見せてくれたそうだ。地元や国内外にもアサギマダラファンはたくさんいる。牟岐町にしかできない持続可能な地域活性化につながると考える。地方創生の新しい目玉、観光名所として取り入れてはどうか。

【答】 福井町長

観光振興に役立てたいという気持ちはあるが、民間主導で進め、行政が支援すべき事業であると考える。